

教育新聞

発行所 教育新聞社
〒110-0005
東京都台東区上野3-17-7
代電 03 (3832) 3571
FAX 03 (3832) 3570
URL http://www.kyobun.co.jp
E-mail kyobun@kyobun.co.jp
創刊 1925年(月報、紙誌)
編集 03 3832-4389
印刷 03 3832-4389
発行 週2回 月・木発行

主な記事

- ② 「学び続ける教員像」を可視化
 - ③ 段階に合わせた支援が円滑に
 - ④ 創作で言語文化を学ぶ
- 新課程 道徳教育推進教師を生かした授業づくり

心理的安定から問題解決力

不登校経験者を個別支援 日本から留学プログラムで

平成9年度の公立小・中学校の不登校児童生徒数は約11万人で、平成9年度以降10万人台で推移しているが、この解決にはどのような方法があるのだろうか。このような状況の中で、不登校経験者一人ひとりを個別に支援しながら、心理的安定を図った上で、進路やキャリアを自ら選択し、問題解決能力やコミュニケーション力を身につける留学プログラムが実施されている。「サンシャインプロジェクト」がそれだ。多言語・多文化が共存するカナダで、一般の学生と二層に体験活動などをしながら国際的な感覚も育むのが特徴。

カナダの「サンシャインプロジェクト」

「サンシャインプロジェクト」のプログラムに
参加した日本の不登校経験者は、引きこもり期間が5年以上の場合もいると
カナダの高等教育は、職業能力開発の実践的なカリキュラムと学術的なカリキュラムの両方を学

習がない国柄がある。プログラムではまず、スタッフとの相談や心理学に関する知識を増やしていくことで、能力開発や対人力、コミュニケーション力を伸ばすための土台づくりを行う。その上で、必要な英語力を伸ばしながら、自分の職業性を見つけてするためのプログラムを、興味関心に応じて実施する。自己選択を判断する際の分野は、①言語の理解・数学②音楽③芸術・美術④運動⑤対人心理の内観⑥環境・校舎——の8つがある。カナダの自然を生かした体験活動もこのプログラムの特色の一つ。対人力や問題解決能力を身につける段階では、不登校経験者一人に一般の学生ら10人程度の割合で仲間を作り、一緒に活動している。対人関係やコミュニケーション能力を伸ばす体験プログラムを通して、対人関係の自信と自発的なコミュニケーション、チームとしての企画力・実行力・問題解決力を身につけていく。プログラムの実施期間は最長10カ月。経験者が06年から始まった「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしながら、必要に応じて必要な基礎的な力」を指す。個々の基礎力は、▽前に進み出す力▽考え抜く力▽チームで働く力——の3つの能力で構成される。カナダでのプログラムは、これらの

3つの力の育成も視野に入れている。プログラムを実施しているウエストコーストの英和チェッカ代表は「心理学的に安定する中で自主性・自覚性がみられ、経験者だからこそのわかる感

性豊かな若者に成長している。5年以上という参加者も、環境に慣れ、心理的に安定する中で自主性・自覚性がみられ、経験者だからこそのわかる感